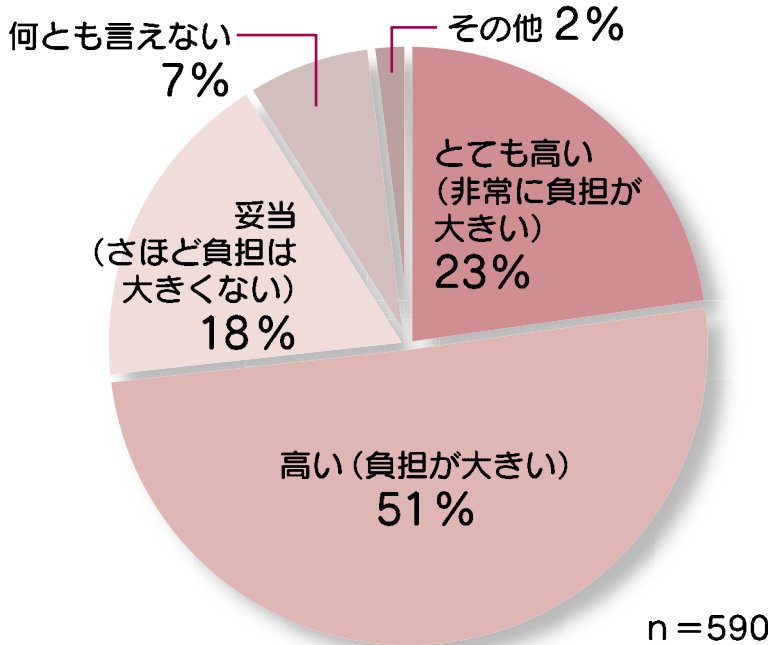
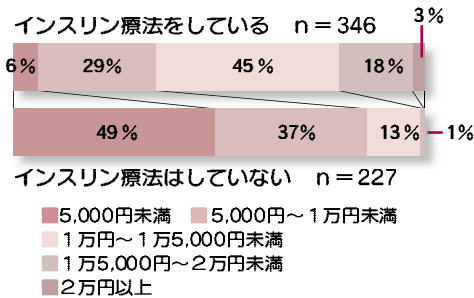


糖尿病患者さんに聞きました

Q. 月々の治療費(自己負担額)について、どう思いますか？



Q. 月々の治療費(自己負担額)はどれくらいですか？

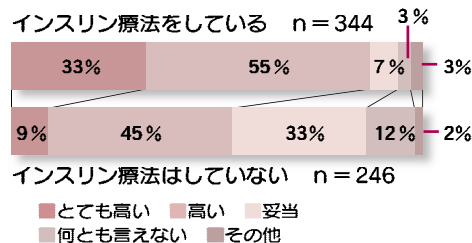


当然ですが、インスリン療法を行っている場合と行っていない場合において、治療費の自己負担額に大きな差がみられました。そこで、最初の質問(治療費の負担の感じ方)の回答を、インスリン療法を行っているか否かで分けてみた結果を右の棒グラフに示します。一見してインスリン療法中の患者さんの治療費負担感が大きいことがわかります。

記述回答を見ると、「高いが仕方がない」「今は働いているが退職後はかなりの負担になるだろう」「負担率が低いから助かっているが総額はひどく高いと思う」「医師の対応の割には高い」「インスリンを含め薬代が高い」「食事療法だけ

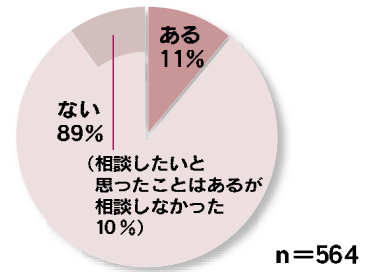
だから良いが今後の心配」「(子どもなので)今は負担がないが成人後のことが大変不安」などの声がありました。

インスリンに限らず高価な薬剤の使用頻度が増え、また、自己負担率を下げるのが難しい社会情勢では、医療供給システム上の問題だけではなく患者さんのQOLを考えるうえでも、治療費が無視することのできない要素となりつつあると言えます。なお、回答者のうち3割負担の人は88%、1割負担は7%、残り5%は「わからない、その他」でした。



Q. 医療費のことを医療スタッフに相談したことはありますか？

治療費の負担感の解決策の一つとして、医療機関に相談してみるという行動を起こす患者さんはどれくらいいるのでし



ようか。結果は上の円グラフのとおり、約1割の患者さんが実際に質問したにとどまり、同じく約1割の患者さんは、相談しようと思ったことはあるが実際には相談していないようです。その理由は、「相談しても安くなるはずがない」「インスリンの価格はこれが当たり前と言われそう」「医師が必要だと思って処置や処方をしているのに、失礼だと思う」「他の患者さんがいるので話しにくい」という意見が多く見受けられました。

反対に、実際に相談した人の相談内容では、血糖測定の消耗品の支給量についてが複数あったほか、医薬分業で薬剤費が高くなったので元に戻してほしいと相談したという患者さんもいました。

Q. 治療費の明細で「生活習慣病指導管理料」は算定されていますか？

算定されている	割合
算定されている	27%
算定されていない	19%
わからない	54%

コメンテーター

鈴木吉彦

(日本医科大学客員教授・(財)保健同人事業団付属診療所所長)

病状が重くなるほど治療費負担が増している現状が分かります。しかし患者さんが相談しても、何を変更するか(システムか?治療方法か?)は医師にも難しい問題です。合併症予防のため必要なのは、薬剤だけでなく、検査も特別な指導も多いはずですから。生活習慣病指導管理料について、わからないと答えた患者さんが半数以上という事は、これの適用例が少ないせいかとも思われますが、いずれにしても医師は期待に応えるよう高い水準の教育や指導を提供する必要があり、それが患者さんの費用に対する意識を変えることにもなるはずで